

令和2年～

岡田 薫省（くにあき）さん

わたしたち夫婦は
大船渡で叶える夢があります。

東京出身ですが…

前職は全国展開する旅行会社に勤める、いわゆる転勤族でして、家族とともに地元東京、神奈川といった首都圏から東北へ。

その中で福島、岩手の東北勤務は、通算勤務年数の半分を占めるほどになり、東北は親しみのある場所。

特に福島は、母方の実家で、毎年夏休みには家族で訪れた場所。きれいな川と海が魅力的な地域で、毎日釣竿を背負って釣りにでかけていましたね。潜在的に海のある暮らしに憧れがあったのですが、こういった幼少期の記憶が影響しているのかもしれません。



たくさんの方々の本気を見てきた。

実は、私の前職は、企画の種類によって生産者さんとの打ち合わせが多い仕事でした。

ありがたいことに、熱い思いをもって生産している「人生の大先輩の方々」からお話を伺う機会が多く、日々そういった話や人に触れていくうちに「生産すること」への憧れや意義のようなものを感じていったように思います。

旅行会社は、企画を通じて「素晴らしいもの」をつくり、育てる生産者の方と一緒にそれをPRし、販売するのですが、一番の魅力である、「素晴らしいもの」を生み出すことは、旅行会社はできないじゃないですか。どなたかの作ったものを紹介して販売することができても、その部分はどなたかの素晴らしさをお借りしなければならない。

そんなことになんとか気持ちのひっかかりができたのも、素晴らしいものを生み出す生産者さんとの交流の中で芽生えたのかもしれないね。

きっかけ。

転勤を繰り返し、仕事に打ち込んでいるときには、どこか違う場所で新しいスタートを切りたいと考えていたわけではなかったですね。子どもが大きくなるまでは親の責任ですし、しっかりと稼いで育てることが当たり前だと思っていたので、子どもが小さい頃は考えたこともなかったですね。

我が家には一人娘がいて、高校入学の時期に盛岡転勤となりました。娘がちょうど高校を卒業する年に、真剣に移住を考えはじめました。おかげさまで娘が大学に合格し、独立することを機に、夫婦で話し合い、今の生活がスタートしました。

みんなが心から賛成してくれた



反対する家族は一人もいませんでした。実家の両親も、妻の家族も、皆「やってみたら」と背中を押してくれました。意外でしたね。反対されると思っていたので、ありがたかったです。

みんなの賛成がなければ、思い切ることはできなかったかもしれません。

特に娘と妻には感謝ですね。

明るく「いいんじゃない?」「やってみたら?」といってくれたことは大きな力となりました。

じつは…。

今でこそ、海での生活を選びましたが、当初は「農業」と「漁業」で悩みました。

前職で農業生産者さんとの交流があったこともあり、「果樹農家」への憧れもありました。自分で作った美味しいものを提供できるって本当に素晴らしいこと。これは「農業」であっても「漁業」であっても同じことですよね。

私が結局漁業を選んだ理由は「自分が好きなこと」。どちらかで悩んだときには「自分が好きなこと」に立ち戻ってみるといいかもしれませんね。私は海が好きで、釣りが好き。何より海の美味しいものが大好き！これで選びました。

もちろん漁業の中でも「養殖」です。美味しいものを育てたい、生産したい、それでだれかに喜んでもらいたい。それが私の夢ですからね。

情報収集

養殖をやりたい！と照準を定めてからは、移住相談会やフェアに参加しました。そして県の漁師向けのサイトや、国のページを調べましたね。

特に漁業関係は漁師. com（ドットコム）などのサイトを活用すると詳しい内容が掲載されていて参考になると思います。

私の場合は漁業の中でも「養殖」をやりたいとはっきり決まっていたので、世界三大漁場との呼び名も高い「三陸沿岸」と決めていました。北から南まで現地に行ってみたり、お話を伺ってみたり、精力的に情報収集を行いました。

大船渡に決めた理由

おどろいた



素晴らしい「ご縁」に感謝

いろんな地域の情報収集をしていく中で、大船渡に決めた理由は、最初の問い合わせの際に担当してくださった大船渡市役所水産課の方の対応が素晴らしかったからです。

そんなことで？と感じるかもしれませんが、これは非常に大切なことだと思いますね。

マニュアルがあるかどうかはわかりませんが、当たり障りのない情報は、個々の状況にあっていないことも多く、問い合わせた側の「ほしい情報」を把握できる力や、情報量がなければ、その対応は全く参考にならないこともあります。いろんな行政や団体などに問い合わせたことがある人は、どのような返答がくるかはすでに予測はできていて、電話口の対応から、その地域の雰囲気や人柄なども感じ取ろうとしているのかもしれません。

ありがたかった

そのくらい、移住を考えているものにとって「地域を決める」ことは、今後を決める「一大事」ですよね。

私の場合、大船渡市の担当の方は、移住を考え、漁業を始めたいという私の身になり動いてくださった。また、同じ水産課の方からは私たちの生活にとって、非常にありがたい情報を提供してくださる、もちろん情報にはタイミングも大きいかもしれませんが、なにより組織的に私たちのことに取り組んでくださっていることが伺えました。

ここでならと思いましたね。

信頼できると思いました。

いただく情報はありがたいものばかりで、本当に感謝しています。

移住に必要な条件って

漁業をはじめたい方が悩むのは、働くところと、住むところ。このふたつは、漁業に限らず移住を考えている人にとって、一番解決しなければならない問題。働くところがあっても住むところがないなど、どちらが欠けても移住はできません。

私の場合は、市役所の担当者がぴったりの仕事のマッチングをしてくれたことと、師匠である方の持ち家をお貸しいただいているので、当面は大丈夫なこともあり決めることができました。



安心して頑張るためにも「家」は大切

ただ現在住んでいる家は数年後にはお返ししなければならぬもので、その時に備え、現在中古物件を探しているところです。地域を見渡すと物件はありそうな気がするのですが、なかなかみつからない。潜んでいる空き家などの情報や、売っていただく際に間に入ってくださるような方や、仕事や家のマッチングを担う団体または人がいてくだされば、初めての土地で漁業や農業、起業や就業をしたい方は助かるでしょうね。

家探しは今後ずっと暮らす場所ですのでなんでもいいというわけにはいきません。まずは、徐々に地域の方々に認めてもらい、できればみなさんにいい物件を紹介していただけたら嬉しいです。

ちょっとお金のことですが…

漁業を始めるにあたって、当面必要になる金銭的なものは、ランニングコストと準備金。これも漁業に限りませんが、計算しだすと不安になりますよね。特に私の場合、漁業でも組織にはいって働く就業型ではなく「独立」を目指しているの、係る費用はぐんと上がります。就業すればすぐに給与として支払われるのですが、私の場合は、漁家に弟子入りをしながら、県の「水産アカデミー」で漁業の基礎を学んでいます。



船上から眺める越喜来湾

養殖で独立するためにはかなりの準備金が必要となります。前職の退職金や必要となる道具などを購入する際の工夫などで「なんとか乗り切れるか」、「いや、いけないか」と頭で巡らせていました。その時に「事業継承」という形で修行できる親方を紹介していただきました。

現在、親方が使用している漁船や漁具なども弟子に引き継いでくださるとのことで、だいぶ初期投資に係る経費が抑えられ、今後のビジョンも立てやすくなりました。しかし、生活するためにはお金が必要。独り立ちしてももちろんお金が必要。

単に「海の仕事に携わりたかったから」だけではなく「目標」「計画」「実施」「検証」が重要となります。これまでそういった仕事に携わってきたおかげもあり、それはシビアにとらえていますね。

引っ越してきた！

ついに、引っ越してきました。私たち家族にとって新しいスタートの年となりました。

私の場合、仕事は夜中にでかけて朝方帰宅するスタイル。ずいぶんと規則正しい生活になりましたね。体を動かすので、これまで気になっていた健康診断の数値も改善され、体も締まり、体系がスッキリとしてきました。いいことづくしです。朝方帰ってからもできるだけ活動的に暮らすことで、夜はぐっすり眠り、朝もすっきりと起きられます。



夫婦二人三脚

夫婦ふたりの生活

これまで、娘をはさんで夫婦の生活が成り立っていたものが、暮らしたことのない土地で二人きりになり、仕事も一緒にやっているのですが、かなり円満ですね。

もともと協力的でよき理解者である妻には本当に感謝しています。

夫婦ふたりが同じ仕事をするのがこんなにいいことだとは思いませんでした。

共通の話、共通の知り合い、共通の夢。

二人になっても快適な生活です。

地域の方々との暮らし

さすがに、3 カ月間ほどは、親方以外の先輩漁師さんは遠巻きに様子をみてくださっていたように感じます。あいさつもほどほどに、「どんな感じの人が来たのだろう」、「本当に続けられるのか」といった心配もあったのかもしれません。

夏ごろから、誰からともなく声をかけてくださるようになりました。

「おう、元気か」「どんな調子よ」と気軽に話しかけてくれます。

真面目に取り組んでいれば、ちゃんと周りの方たちは感じてくれる。受け入れてくれます。最初はもしかしたら話しかけてもくれないかもしれないけれど、それはちゃんと様子をみているのだと思いますよ。

漁師って

全く違う職種から、漁業に入ったわけですから、当たり前のように、知らないことばかりです。

毎日が新鮮。知らなかったことを教えてもらえるのですから感謝しかないですね。



海に暮らす方、漁師の方の印象って、「口が悪い」なんて思われがちですが、全くそんなことないですね。

みなさん「人がいい」「人が温かい」のです。そりゃ、たまには怒鳴られますよ。

「バカヤロー！」って。

でも、怒られているという気持ちにならない。「ああ、ありがたい」と思うのです。

「バカヤロー！」なんて怒鳴るときは、事故やけがの危険があるときだから。十分に注意しなければならないことを教えてくださっているのです。本気で心配して怒ってくれる。ありがたくって温かいですよ。

先輩漁師さんとは「ホヤの収穫・出荷」などで、最近は同じ作業をご一緒させてもらう機会が多くなり、だんだん顔見知りになってくるといろんな話を教えてくれます。

漁師さんって「代々受け継がれる技術」のようなものがあって、門外不出の情報などもあるのだろうな、と想像していたのですが、一度仲間と認めてもらえると、もっている技術を、それこそ惜しみなく教えてくれるのです。

「わからないことがあったら聞けよ」「何か困ったことがあれば俺のところに来いよ」と気さくに声をかけてくださる。

私の親方も「機会があれば他の漁師と仕事をしろ」といってくれます。たくさんの漁師と仕事をして、そのやり方を教われと。

私は、本当に周りの方々から、よくしてもらっているなぁとつくづく感じますね。

心配なこともある

本当にみなさんにお世話になって、よくしてもらっています。そんなみなさんへ漁師としてちゃんと独り立ちし、恩返しをしていきたいと思っています。

ふと、いま私を教えてくださる先輩方は、あと何年現役で頑張ってくださいののだろうかと考えてしまうことがあります。



あと、何年皆さんに教えてもらえるのだろう。

若い漁師さんもありますが、この産業も高齢化が進んでいて、圧倒的に後継者が不足しています。こんな素晴らしい産業が衰退していくのは残念でなりません。



素晴らしい技術は、貴重な財産、宝ですよ。

今後漁業で独立を目指す人には、私のように「事業継承」できるような仕組みや、師匠とのマッチングのほか、お金をもらいながら勉強できる研修制度がもっと充実していけば、より漁業へのハードルが下がるのかなと思いますね。

今よりも多くの方が「やろう」と思ってくれるのではないかなと思うのです。

こんなに素晴らしい技術が、誰かに受け継がれていかないのは、本当に残念でもったいないと思いますね。

わたしたちの夢

私たち夫婦は、海の幸が大好き。
特に貝類が大好き。
妻は「カキ」、私は「ホタテ」と種類は分かれています
ますが、魚介類が大好きなのは同じ。
もし、その大好物を自分が作ることができたら、嬉し
くないですか？
その美味しいものを、誰かに提供して喜んでもらえたら、それは最高に嬉しいですね。



採れたて牡蠣！ウニ！

「観光×漁業」。これは「絶対にイける」と
思っています。

まずは美味しいものをつくれるようになること。
まず漁業の仕事が一番。プラス、土地のことをお
ぼえて、魅力を発信して、たくさんの方々に来て、
知ってもらう。それをトータルで行える漁師になり
たいですね。

そして私たちのように新しく漁業に入門する方々へ、私たちがしてもらったようにサポートしてあげられる
ようになっていきたいですね。

私にはこれまで培った「観光」のノウハウがあり
ます。これから習得する「美味しいものを生産す
る仕事」、これと合わせて、もっともっと大船渡
の美味しいものを食べに、そして素晴らしい自然
を見に人がきてくれたらいいなと思っています。
よそ者だからわかるこの地域の素晴らしさを、ぜ
ひたくさんの人に知っていただきたいなと思っ
ています

